

システム企画研修 上野則男のメルマガ2012年3月号です

各位

42号をお届けします。

また今月も作成が月末に集中してしまい、
ブログでのご利用者にはご迷惑をおかけします。

先日も、某超大手IT企業の会長様に
「毎号読ませていただいているけれど、
いっぺんにたくさん来るのは読むのが大変。
分割してよ」と言われてしまいました。

今後努力しますとお答えするしかありませんでした。

ということで今月も9編の集中攻撃です。
できれば選択してお読みいただければ嬉しく思います。
何とぞよろしく願いいたします。

まだまだ寒さが続くようです。
健康管理にご留意ください。

皆さまからの「いいね」ボタンのクリックをお待ちしています。
よろしく願いいたします。

★—————No. 42 2012年3月—————★

以下は作成順です。ブログでは逆の順序です。

- 鳩山由紀夫の罪 万死に値する
あの鳩山さんがまだ前線に出ようとしているなんて
「とんでもない！」という悲憤慷慨です。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_13.html
- 病は「気」で治る
本当にそうなんです。今回も素晴らしい例を見つけましたので
ご紹介するものです。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_27.html
- 放射線の被害を騒ぐのはやめてほしい！
低線量の放射線は体に悪いどころか良いのだということのアップールです。
いつになったらこれが常識になるのでしょうか。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_3905.html
- 4年以内に70%？
関東直下型地震が間もなく起きる？
そんな無責任なことを報道しないでほしいというクレームです。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_6648.html
- 高齢者や日本を明るくする試案
高齢者を社会のお荷物と考える風潮が強いですが、
そうではない道考えた方が良いですよ、という提案です。
民主党に送ろうと思います。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_5918.html
- 第6回東京マラソンが行われました
30万人が申し込んで3万人が走ったという大イベントです。
走ることについていろいろ知りましょう、のページです。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_9090.html
- 大学が秋入学へ
何を考えているのだろうか？を目的・ねらい論から考えてみました。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_3119.html
- Sweeper養成講座第2期がスタートしました
当社のビジネスのご紹介です。これによって、日本のビジネスを
強くしていきたいという希望から生まれている研修です。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_29.html

■保守業務改善・改革の研究会に参加されませんか
当社の活動の一つのご紹介です。
これもソフトウェア保守業務の改善を通じて日本を強くしたい
という願望のプログラムです。
皆様のご参加をお待しています。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_8993.html

当メルマガは、
以下の方法でお送りいたしております。
このメール本文では、「上野則男のメルマガ」のテーマ名だけをお知らせします。
内容は、以下のいずれかの方法でご覧いただくことができます。

1. 月刊の「上野則男のメルマガ」
このURLで、バックナンバを含めてご覧いただけます。
<http://www.newspt.co.jp/data/mai/maga/mgbk.html>

ブログにアクセスできない方は、こちらをご覧ください。

2. 随時更新される「上野則男のブログ」
総括の入り口のURLは以下のとおりです。
<http://uenorio.blogspot.com/>

個別のテーマのURLは、下のテーマ一覧のところに表示しています。

3. 携帯で「上野則男のブログ」をご覧いただくこともできます。
携帯用のQRコードが、上記の「上野則男のメルマガ」の冒頭部、
または「上野則男のブログ」の冒頭部右に示されています。
ご利用ください。

ご意見等につきましては、ブログへの書き込み（なるべくこれをお願いします）
か、当メールへの返信でお願いいたします。

★—————No. 42 2012年3月——★

■鳩山由紀夫の罪 万死に値する
あの鳩山さんがまだ前線に出ようとしているなんて
「とんでもない！」という悲憤慷慨です。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_13.html

鳩山元首相が
民主党の外交部会の最高顧問に就任したそうです。

よりもよって、
鳩山元首相の最高の失敗の沖縄基地問題に関わる
外交の場に関係するなんて開いた口がふさがらない、
とはこのことを言うのでしょう。

2月12日のフジテレビ新報道2001でも
麻生元総理が鳩山元総理の基地問題の対応について
「その罪万死に値する」という言葉を使っていました。

一時の思いつきで、
それまで営々と交渉して決定していた
結論をひっくり返してしまいました。
その挙句
結局は元の案に戻そうとしているのですからね。

その日のゲストだった91歳の絵日記作家は、
その意気軒昂ぶりには感心しましたが、
「鳩山さんは責任をとって議員を辞職すべきだ」
と書いていました。

そのとおりです。
あのノホホンとした顔を見ていると
本当に腹が立ちます。

当日も、そういう人選を行う民主党は世間の意識に対して無神経すぎる、と言われていました。そのとおりです。

どじょうは本当にただのどじょうでした。この人事は許せないですね。

追伸：
鳩山さんの起用は民主党が決めたことですから、総理大臣である野田さんの全面的責任ということではないですね。一応弁護しておきます。

■病は「気」で治る

本当にそうなんです。今回も素晴らしい例を見つけましたのでご紹介するものです。

http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_27.html

「病は気で治る」は、「病は気から」の反対です。昔からこの現象はあったはずですが、なぜこの言い伝えがないのでしょうか。不思議です。

「病は気で治る」の新しい報告を見つけました。到知2012年3月号の「歴史が教える日本人の生き方」白駒妃登美さんの報告です。こう書かれていました。

「（前略。子宮頸がんから肺に転移した）がんは次々に転移していったのです。主治医はこうおっしゃいました。『これから先、お子様の世話をどなたにしてもらおうか。まだ体が動くうちに家族で話し合って考えておいた方がいいですよ』

（中略）そして——。主治医の言葉に衝撃を受け塞ぎ込んだ日から3週間後、これからいよいよ抗がん剤治療という直前、驚くような出来事がありました。

事前の検査ですべてのがん細胞が消えていたのです」

その3週間、一時は塞ぎ込んでいた白駒さんは、友人の励ましに感動して開き直り、喜びと感謝の日を送りました。

「病気に打ち勝とうという気もなくなり、がんは『おはよう』と声を掛ける余裕も生まれていました」
ということだったのです。

気（気持）ががんに勝ったのです。

白駒さんは、慶応大学卒業後、7年半のキャビンアテンダントの経験もお持ちで、その後「博多の歴女」として名を馳せた方です。現在は結婚コンサルタントとして活躍されているようです。

凄く頑張る人がいるものですね。

以前ご紹介した帯津三敬病院の帯津良一先生も気功を治療や健康強化に取り入れておられます。

http://uenorio.blogspot.com/2010/06/blog-post_29.html

これも、何回かご報告したことがありますが、

私の妻のお母さんは、
がんの宣告で余命数カ月と言われてから
約20年間生きました。

次々と転移をして、
何度か歩行不能状態になりながら回復しました。
孫の顔を見たい、孫の成長を見たい
の一心だったのです。

最後は、孫が大学受験に失敗した後の春先に
肺炎に罹ってあっけなく逝ってしまいました。
「氣」が途切れたのでしょうか。

がんはご承知のように、
正常細胞とがん細胞の戦いです。
弱気になったらどんどん負けてしまいます。

現在、当社の前経理部長ががんと闘っています。
「今3歳の孫娘が小学校に入るまでは」
と頑張っています。
その気を失わずにいれば、
願いはきっと叶うでしょう。

■放射線の被害を騒ぐのはやめてほしい！
低線量の放射線は体に悪いどころか良いのだということのアップールです。
いつになったらこれが常識になるのでしょうか。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_3905.html

原爆で浴びるようなものではない低線量の放射線
(年間の100ミリシーベルト程度まで)は、
「健康に害であるどころか有益である」
という検証がされていることを
何度かご紹介しました。

それなのに、
ICRP(国際放射線防護委員会)が
安全基準の明確な改訂を行わないものですから、
慎重・保守的な日本の行政は
無茶苦茶な規制を行っています。

このことによって、
どれだけ多くの住民・農畜産関係者が被害を受けているのか
気が遠くなるほどのことです。
(除染作業で多くの雇用を生み出すために
この無意味な規制を続けているとは思いたくありません)

この度、このテーマの情報提供者茂木弘道氏から
新しい情報が届きましたのでご紹介します。
100ミリシーベルト以下の有益性を示す
多くの調査結果が一覧できるグラフです。
ぜひご覧ください。

最近の報道では、
「文部科学省の放射線審議会は、
食品中の放射性セシウムの新しい基準値案について
「妥当」とする答申をまとめた。
摂取した食品による内部被曝の合計が
年間1ミリシーベルト以下になるように設定した」
とあります。

安全である100ミリの100分の1です。
この答申には一部の委員が
「厳しすぎる」という意見を述べたようです。
これが「有識者」ですね。
あとは「事なかれ主義者」でしょう。

一刻も早く、日本がこの悪夢から目覚めることを

願ってやみません。

■ 4年以内に70%?

関東直下型地震が間もなく起きる?

そんな無責任なことを報道しないでほしいというクレームです。

http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_6648.html

このご報告の目的は、
「こんな数字は忘れましょう」
ということです。

この数字をご記憶の方も多いでしょう。
1月23日に東大地震研究所が
「4年以内にM7クラスの
首都直下型地震が起きる可能性は70%」
と発表したのです。

この数字は一人歩きして
首都圏住民は「どうしよう!」
と恐れ慄きました。

地震予知がこれだけ不確かで失敗ばかりしている時に
どうやってそんな正確そうな予想ができるのだろうか?
と、多少は統計学を学んだ私としては
疑問に思ったものでした。

案の定、各方面からこの「予想」に対して
異論が出ました。

その一例は、
2月9日号の週刊新潮に載った以下の記事です。
東大大学院教授（地震学）ロバート・ゲラー氏の意見を
紹介しています。

「現代科学の力で地震を予知することはできません。
特に、短い間での発生確率の正確な予測は困難です。

私たちが地震について把握している観測データは
せいぜい100年程度。地球誕生から46億年が
経過していることを踏まえれば、
このデータは「一瞬」に等しい。

要するにサンプル数が少なすぎるのです。

地震研究所のサンプルデータは、
昨年3月11日から半年のもので、
その間は余震も多かった。

そのデータから予測すれば
地震発生の確率は大きく出る」

学者さんもこんなレベルなのです。

常識的におかしな説を
学者の意見だからと真に受けて報道するのは
やはり「マスコミの無責任」ですね。

もっと無責任なのは、その後、
政府の地震調査研究推進本部が、
この地震研の予知数字を採用しないとすることを
大きく報道しなかったことです。

したがって、3年以内に70%
という数字が頭に残っている方が多いはずです。

因みに、地震調査研究推進本部は、
M7クラスの南関東での地震の
30年以内の発生確率を70%としています。

不安を煽る方だけに加担して
鎮める方は知らん顔なのですかね。

■高齢者や日本を明るくする試案
高齢者を社会のお荷物と考える風潮が強いですが、
そうではない道を考えて方が良いですよ、という提案です。
民主党に送ろうと思います。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_5918.html

今現在65歳以上の高齢者は4人に1人ですが、
20年後には3人に1人になるそうです。

この高齢者に健康で元気でいていただくことは、
健康保険制度・年金制度の維持の上からも
日本の国の活性化度の点からも必須であることは
衆目の認めるところです。

しかしながら、議論は
年金等の社会保障費の財源の捻出方法に傾いていて
後ろ向きのそしりを免れない状況です。

それでは高齢者にとっても若い人たちにとっても
明るい未来が期待できません。
高齢者が明るく元気になって
医療費がかからない国を目指すべきです。

その試案を思いつきました。

この試案の「目的・ねらい」と骨子
目的
高齢者が病気にかからず元気に活躍する。

ねらい

- ・医療費が削減できる。
- ・国の社会保障費が削減できる。
- ・税金が少なくて済む。
- ・社会が明るくなる。
- ・若者が将来に希望が持てる。

案の骨子

- ・高齢者が活動する場を作る。
- ・町内会や団地の管理組合を拠点にする。
- ・囲碁、将棋、麻雀、料理、お稽古ごと
などのクラブ活動をする。
- ・小中学校のグラントを使って、
ゲートボール、フォークダンスなどを行う。
- ・若者が参加をしてもよい。
- ・その活動をマネージするリーダーを養成する。
- ・その制度を作り自治体が補助する。
- ・活動の補助金も出す。
【ハコものは既存のものを使用できるので、
公的補助はソフト面の補助だけである】

会社を引退した高齢者が
元気になるのはどういう場合でしょうか。

やはり、
何らかのコミュニティに参加して活動をすることです。

その場を、
日本の良き制度・遺産を使って実現できるのです。
それは町内会（隣組）です。

私は品川区に住んでいますが、
町内会は会館を持っています。
今では、その会館は地元のお祭りの時など、

限られた時しか利用されていません。

そこをもっともっと活用して「サロン」にするのです。

将棋の好きな人、囲碁の好きな人、麻雀の好きな人、カラオケの好きな人がいるではないですか。その人たちがどんどん集まって楽しめばよいのです。

女性用にはお茶、お花、料理などの教室ができます。料理は男性も楽しめます。

若者（非高齢者）にも参加していただきます。活動が活性化されます。

インドアだけでなく、アウトドアもあった方が健康によいでしょう。それには、小中学校のグラウンドがあります。小中学校の体操の時間と調整して使わせていただきます。

毎日のようにゲートボールなどをやったらよいではないですか。

将棋でも囲碁でも麻雀でもゲートボールでもカラオケでも、イベントをやったらよいでしょう。誰でも勝負は好きですから張り切って参加しますね。

ここからが本題です。この企画ではハコものは不要です。仕切れる人が必要なのです。各種の活動に必要なのは、全体を仕切る人です。設けるクラブを決めること、各クラブの調整をして利用時間を決めること、道具類の補充など、が必要でしょう。イベントの企画は大事な仕事です。

そこで高齢者で仕切りの好きな方にボランティアになっていただいてリーダー講習を受けていただきます。

厚生労働省の「中高年者縦断調査」でも、現在働いている60-64歳の57%が65歳以降も働きたい29%が70歳以降も働きたいと言っています。

リーダーになった方に活動補助金を渡して使っていただくのです。団地やマンションでは管理組合の理事長にリーダーになっていただきましょう。

町内会には町内会長がおられます。今後はスポンサーではなく、そういう仕切りができる方に町内会長になっていただいたらよいでしょう。

30人に1人くらいの比率でリーダーが必要だとして、全国で100万人のリーダーになります。リーダー研修の費用と活動費補助で1人（1拠点）当り年間50万円程度を税金（地方税でしょうね）から支出します。

そうすると、日本全体では5000億円くらい必要です。ですがそのくらいの金額は高齢者医療費が1割削減できれば捻出できるのです。なおかつ先進的な明るい社会が実現します。

消費増税分からこの補助金に振り向ければよいのです。

これとは別に

気功や気功を取り入れた治療活動にも補助金を出しましょう。

別項「病は気で治る」のように本格的な気功は健康維持に極めて有効です。

基本的な方向性は、健康を害した人にお金を出すのではなく、健康を維持するためにお金を出すということです。

これらの方法はすべて日本ならではの。こんな素晴らしい案はないのではないのでしょうか！

日本が世界に先駆けて明るい高齢者社会のモデルを示すことができます。でも他の国では真似ができないでしょう。社会インフラが違いますからね。

■第6回東京マラソンが行われました
30万人が申し込んで3万人が走ったという大イベントです。
走ることにいろいろ知りましょう、のページです。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_9090.html

私は残念ながら、今年も抽選に外れ参加できませんでした。5回連続外れです。

私はほぼ毎日ジョギングをしていますが、参加できたとしてももう完走は無理でしょうね。

これを機会に「なぜ人は走るのか」（トル・ゴタス著）を読みました。

こんなことが書いてありました。

走る元祖
森林にすんでいた人類の祖先が
森林がなくなってサバンナになった時に
走らないと獲物にありつけなくなり
走る機能が強化され、
走れる能力のある者が生き残り、進化した。

トピックス
「人類は、多くの種と比べて走るスピードは遅いが、発汗することで（汗腺が極めて多い）体温の上昇が抑えられるため、足の速い動物の体力を消耗させることができる。」

アフリカのブッシュマンは、今でもレイヨウを過熱で倒れるまで追い詰め、やすやすと手に入れる。

走ることは、人類の本質的な特徴であり、人類はさまざまな場面でこの特性を生かしている」

古代国家での走る意義
古代国家では、情報伝達手段は人間が伝えることしかなかったため、速く走れる者は非常に尊重され「高給で遇された」

トピックス
紀元前2000年ころのシュメールの都市国家の王シュルギは、収穫感謝の祭典の際、往復320キロの距離を1日で走破し、

権力者としての身体能力の高さを誇示し
その名声を確かなものにした。

オリンピックの元
近代オリンピックの基になったオリンピア競技祭は、
ギリシャ各地で行われた。
短距離走が注目を集める競技であり、
最短距離のレースに勝った者は英雄扱いで
賞金は
一生楽に暮らせるだけのものが与えられる場合もあった。

トピックス
第1回のオリンピア競技祭は紀元前776年に行われた。
192メートルの短距離走の勝者の名前が残っている。

オリンピックでのアフリカ勢の活躍
多くの方がご存じのように
エチオピアのアベベがローマオリンピックで
世界新記録で優勝して世界を驚かせました。

それ以上に話題になったのは、
はだしで走ったことでした。
それで、アフリカ人は日ごろはだしで
原野を走り回っているから速いのだ、
と言われました。

あるいは、
ランニングシューズを買うお金がないのだ
とも言われたりしました。

アベベは東京オリンピックでも優勝しました。
マラソン2連勝はアベベだけです。

アベベの活躍を機会に
ケニアをはじめアフリカの多くの国で
マラソンランナーが輩出した。

アフリカの国の人たちにとっては
マラソンはじめ陸上競技で勝つことが
貧困脱出。出世の道だったのです。

アメリカへの奴隷狩りと同じように
多くのスカウトが人買いをしたようです。

東京マラソンでも
優勝はじめ上位はアフリカ勢でした。

アフリカ勢の中で
よく日本の藤原新が2位に入りました。
体を見るととても勝ち目がない感じがしますが、
心臓とか強いところがあるのでしょうか。

ジョギング
私もジョギング愛好家ですが、
本格的なジョギングには
ちゃんと歴史があるのです。

ニュージーランド、オークランドの
アーサー・リディアードが生み出したトレーニング法
が元祖です。

会話ができるほどのスピードで長距離を
週に200キロも走り基礎体力をつけます。
その合間に短距離のスピード練習も行います。

この方法によって
ラストパートでスピードを出して
勝つことができます。

「会話ができるスピードで走る」
これがジョギングです。

ピーター・スネルなどリディアードの弟子たちが
国際大会で好成績をおさめ、
「ジョギング」はオークランドでの流行りになりました。

それでも、夜1人で走って警官に不審尋問されたり、
車から邪魔者扱いされるということはあったそうです。
今でも日本で皇居の周りでは、
邪魔者扱いされていますものね。

女子マラソン
今では当たり前になっている女子マラソンですが、
オリンピックで女子マラソンが誕生したのは、
1984年のロサンゼルス大会です。

20世紀半ばまでは
女性は長距離を走るのに向いていない、
と信じられていたのです。

それは、
1928年のアムステルダム五輪の
女子800メートル走で、
ゴールで倒れる選手が続出したためだそうです。

しばらくは、男子選手にまぎれてマラソンに
出場する、などの時代が続いたようです。

この偏見を打ち破ったのは
著名ランナ・スター誕生ではなく、
1980年代のジョギングブームのようです。

アメリカはじめヨーロッパで
ジョギングブームから走ることへの関心が広まり、
その中に女性もいたということです。

その後はスターが生まれましたね。
イングリッド・クリスチャンセン、
リディア・シモン、ヌテレバ、ロサモタ
などです。

日本の高橋尚子さんもベルリンマラソンで
当時世界最高記録で優勝しました。
あれは2001年のことで、
ずい分昔のことになってしまったのですね。

「東洋の魔女」に次ぐ日本女性強しの元祖です。
皆様も健康維持目的で
楽しいジョギングをされたらいかがですか。

■大学が秋入学へ

何を考えているのだろうか？を目的・ねらい論から考えてみました。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_3119.html

当初発表された時はびっくりでしたね。
その証拠に大新聞が1面に載せました。

東大が発表したときの
秋入学は以下の意図でした。

実現目的

入試は従来どおり春に実施
入学は秋（卒業も秋）
入学決定から入学までの期間を空ける（ギャップターム）
（実現は数年後になりそう）

秋入学にするねらい

- 1) 国際的なスケジュールと合致して
留学生の送り出し・受け入れが容易になるなど、
学生・教員の国際流動性が高まる。
(主要国では秋入学が主流である)
- 2) 学期の途中で夏休みが入らずに勉学の効率が上がる。
- 3) ギャップタームにさまざまな社会体験などができる。
- 4) 資格試験の受験を1年遅らせたり、
夏季休暇を就職活動に充てたりして、
学期中は学業に専念できる。

これを見ても、ねらいから目的に至っていることが
お分かりでしょう。

一般に「ねらい」が先で「目的」を考えるのです。
「こういうシステム(仕組み)を考えよう」
が先ではダメなのです。

ただし、商品開発の場合は、
「こういう商品はどうか」というアイデアが先
という場合もあるでしょう。

「ねらい」が大事ですから、
ねらいが実現できるほかの方法があれば
それでもよいのです。

現に、2月になって一橋大学は、
以下の案を提案しました。
「春に入学、授業は秋から」

この案だと
「ねらい」の1)は若干問題がありそうですが、
「ねらい」の2)～3)は実現できます。
さらに、「入学受験事務を夏休みにしなくてすむ」

「学生が高校卒業後
入学先が決まらないという不安状態を避けられる」
という利点があります。

実は秋入学方式には、
他にも乗り越えるべき課題があります。
実現までには、
それらの課題を克服する案になることでしょう。

■Sweeper養成講座第2期がスタートしました
当社のビジネスのご紹介です。これによって、日本のビジネスを
強めていきたいという希望から生まれている研修です。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_29.html

ソフトウェア保守業務の改善・改革の推進者である
S w e e p e rを養成する研修が
2月27日にスタートしました。

<http://www.newspt.co.jp/data/sweeper/sweeper.html>

お一人が風邪で欠席しましたが、
6社11人のメンバが元気に参加されて
第1単元を実施しました。

参加メンバの写真をご覧ください。

年齢は28歳から49歳まで
平均年齢は41歳です

情報システム部の方が2社4人

情報子会社の方が2社4人
システム事業会社の方が2社4人です。
均等に分かれています。

ソフトウェア保守業務の改善によって
恩恵を受けるのはシステムの利用者で
そのために働いているのが、
システム部門と情報子会社ですから、
その方々が参加されるのはごもっともなことです。

システム事業を実施されている企業のご参加も自然です。
ご自分たちのために改善されるのです。

今までは、
保守の実務は「他人任せ」の状態が多かったのですが、
私どもの働きかけもあり
自ら動きだされている「当事者」たちが増えてきた
ということが読み取れます。

当研修の受講生のご活躍によって
ご参加企業のソフトウェア保守業務の革新が実現する
ことを期待してこの講座を進めてまいります。

第3期は本年6月に開講予定です。
ご関心ある方のお問い合わせをお待ちしています。

■保守業務改善・改革の研究会に参加されませんか
当社の活動の一つのご紹介です。
これもソフトウェア保守業務の改善を通じて日本を強くしたい
という願望のプログラムです。
皆様のご参加をお待ちしています。
http://uenorio.blogspot.com/2012/02/blog-post_8993.html

当社ではここ数年、ソフトウェア保守業務の改善・改革を
推進しております。

別項でご紹介しているSweepers養成講座は研修ですが、
研究会も開催いたしております。

それがここでご紹介するSLCM研究会です。
SLCMはシステム・ライフサイクル・マネジメントの略で、
システムの企画から開発、保守、運用のすべてを
研究しましょうという趣旨です。

この4年ほどは保守に注力しています。

昨年からは、保守の当事者たちが現場で抱えている問題
の改善策や改善方向を参加者全員で検討する
ということをやっています。

保守業務については
社内で改善などの相談に乗ってくれるスタッフがいませんから、
このような研究会の場は貴重なのです。

ちなみに昨年取り上げた主なテーマとその改善策は
以下のとおりです。

1. 保守担当の分担方法
ー 縦割りがよいか、機能分担を取り込んだ横割りがよいか ー
結論（の一部）：
 - ・保守業務はおお客様の業務に接する入り口からリリースまでを
担当できる大きな特性を持っている。
 - ・この特性を活かして完全縦割りとするのがよい。
 - ・そうすると、担当はプログラムをいじることを含めて
一貫した技術習得ができる。

- ・なおかつ、一貫して担当することによって作業に対するPDCAも働き、生産性が大きく高まることが期待できる。
- ・ただし、一つの領域に留まるとマンネリ化するので、定期的にローテーションすることが必要である。
- ・そのためには脱「属人化」の対策を講じる必要がある。

縦割り分担のイメージ

2. 障害削減対策
 - － かなりの対策を講じて障害が削減されているが、さらなる削減を行うにはどうしたらよいか －

結論の骨子：

- ・原因分析の徹底と業務従事者の目標意識の強い共有が必要である（原因究明の5階層モデルを作成した）。

3. 保守業務の年間契約レベルの設定方法
 - － お客様との合意工数枠をどのレベルで設定すべきか －

結論（の一部）：

- ・最低保守水準（MUST枠）と追加対応水準との2段構えとする。

4. 緊急時の障害対応方法

結論（の一部）：

- ・一つ一つの障害種類ごとのマニュアルを作成することは

現実的でない。障害発生時の対応訓練が重要である。

これは、
以下の2012年度会員の募集案内にも掲載しているものです。
http://www.newspt.co.jp/data/slcm/hosyu_ken.html

今や、
ソフトウェア技術者の大半は保守に携わっておられるのです。
皆様もぜひこの研究会に参加され
種々の難題を解決し、
将来の出世切符を手になさませんか！！

【弊社からのお知らせ 目次および開催日程】
<http://www.newspt.co.jp/data/schedule.html>

- ▼ 第2期保守業務改革プロフェッショナル（Sweeper）養成講座・・・2012/2/27開講しました
- ▼ 2012年度SLCM研究会（システム・ライフサイクル・マネジメント研究会）
～ソフトウェア保守業務改革の実践研究～・・・会員募集中
- ▼ 保守業務の革新研究トップセミナー
～保守コストの半減を目指して～・・・2012/3/6開催

- ▼ 第2期保守業務改革プロフェッショナル（Sweeper）養成講座
- ◆ ご好評により、第2期研修を開講いたしました。
2月27日（月）から6月19日（火）までの間に9講座を隔週開催で実施し、その後、3カ月の間に実践をしていただく研修です。
改善と改革を盛り込んだ内容で構成しております。
詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.newspt.co.jp/data/sweeper/sweeper.html>

【対象者】 ・ 一般企業・情報子会社殿：システム／IT部門の中堅社員

- ・情報サービス企業殿：社内またはお客様企業に対しての改善・改革の推進担当者
- ・いずれも二人ペアで、連携して改善・改革を進められる組み合わせでのご参加がお勧めです
(スタッフとライン、マネージャと担当、発注企業メンバと委託先企業のメンバ、等、)。

【参加費】お2人のペア参加で525,000円(税込み)

- ◆途中参加も承りまっております。
内容等のご説明等に伺いますので、是非ご用命ください。

▼ 2012年度S L C M研究会 (システム・ライフサイクル・マネジメント研究会)
【ソフトウェア保守業務改革の実践研究】

http://www.newspt.co.jp/data/slcm/hosyu_ken.html

【日時】5月から年6回開催いたします(いずれも木曜日)。

第1回：2012年5月31日
第2回：7月19日
第3回：9月20日
第4回：11月15日
第5回：2013年1月24日
第6回：3月14日

各回とも13:30~18:30まで、その後情報交換会を実施します。

【会場】ご参加企業にご提供いただきますので毎回変更いたします。
ご参加者には都度ご連絡させていただきます。

【費用】お1人参加：210,000円
お2人参加：315,000円(いずれも税込み)

【対象者】ソフトウェア保守業務の改善・改革をミッションとしておられる方、
ご関心のある方など、是非ご参加ください。
これまでの研究会へのご参加は不問です。

▼ 保守業務の革新研究セミナー
～保守コストの半減を目指して～ 2012/3/6

◆2012年2012年3月6日(火) 14:00~19:00

<http://www.newspt.co.jp/data/semina/tops.html>

【対象者】情報システム・IT部門長殿、
およびそのご推薦の方で保守業務の改善にご関心のある方
【参加費】無料

お申し込み・お問い合わせにつきましては本メールへの返信あるいは
弊社HPよりお願いいたします。

↓
<http://www.newspt.co.jp/data/schedule.html>

☆☆アドレス変更・送信停止等は本メールへの返信にてお願いします☆☆

=====

システム企画研修株式会社
Tel : 03-5695-3130、Fax : 03-5695-3131
〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町16-2 東事協ビル2F
mind-pc@newspt.co.jp
<http://www.newspt.co.jp>

=====